

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

甲状腺腫瘍診療ガイドライン 2018

日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会 甲状腺腫瘍診療ガイドライン作成委員会（委員長：岡本高宏 東京女子医科大学外科学（第二）・衛生学公衆衛生学（第二））

日本内分泌外科学会／日本甲状腺外科学会 発行年月日 2018 年 12 月 25 日

Strength of Recommendation

◎◎◎：行うよう強く推奨する

◎または◎◎：行うよう弱く推奨する

×または××：行わないよう弱く推奨する

×××：行わないよう強く推奨する

■1 漢方を含む補完代替治療法

疾患：

甲状腺癌

CPG 中の Strength of Recommendation:

×××：行わないよう強く推奨する

引用など：

Rosen JE, Gardiner P, Saper RB, et al. Complementary and alternative medicine use among patients with thyroid cancer. *Thyroid* 2013; 23: 1238-46.

有効性に関する記載ないしその要約：

『CQ41: 甲状腺癌治療として補完代替治療法は推奨されるか？』に対して、下記の記載がある。

『推奨：甲状腺癌の進行抑制や延命効果が確認できる補完代替治療法は存在せず、行わないことを強く推奨する。』

解説：癌患者における補完代替治療法は大まかに、(1) 代替医療システム（伝統医学系統、民族療法、東洋医学など）、(2) エネルギー療法（気功、レイキなど）、(3) 肉体的療法（カイロプラクティック、マッサージ療法など）、(4) 精神・心体介入（精神療法、催

眠、瞑想など)、(5) 薬物学・生物学にもとづく療法 (漢方、サメ軟骨、アガリスク、食事療法、免疫療法など) の5つに分類される。(中略)

現在までに甲状腺癌の補完代替治療法に関しては、使用頻度を調査した報告があるのみで、他の癌腫で見られるような化学療法の吐き気を軽減する効果、痛みや不安を取り除く効果も確認されていない。』